

ちくさんスナップショット

平成 26 年 3 月 第 34 号 株式会社富士飼料

【お客様のために】

先日ある記事で、酪農にかかるコストについて書いてありました。

平成 23 年 2 月現在のデータによると全国の酪農家戸数 21,000 戸、乳牛の飼育頭数は 1,467,000 頭。つまり一戸当たりの飼育頭数は約 70 頭の計算になります。そして搾乳牛 1 頭当たりの 1 年間にかかる費用は農林水産省の統計で約 76 万円(当時)。単純に一戸当たり年間 5,320 万円もの経費がかかる計算です。そして 5,320 万円のうち約 4 割が飼料代に費やされるそうです。

コストの 4 割を占める飼料代を頂いている弊社にとっては、お客様の苦勞される中から捻出されたものですから一円たりとも無駄にする事は出来ません。ですので、仕入から配送、製造や品質管理等、全てにおいて無駄な経費を無くす事に富士飼料社員一人一人は取り組んでおります。それにより『質の高い』『より安全』『より安価』な商品をお客様にお届け出来ればと思っております。

【宮城県南担当：斎藤勉】

【PM2.5 にご注意！】

PM2.5 はかなりの微粒子でスギ花粉の 1/12 の大きさ。余りにも微粒子な為、体内に入り込むと肺の奥まで入って呼吸器系に悪影響を与え、気管支炎、ぜんそく、肺がんを誘発すると言われています。■外出時はマスク着用が必需になりそうです。花粉症対策マスクは全く効果がなく、PM2.5 対策マスクを着用して下さい。屋内では空気清浄器の使用をお勧めします。■地域毎の PM2.5 濃度は環境省の HP から大気汚染監視システムで見ることが出来ます。年配の方、小さなお子さんがいらっしゃればより一層の対策をされた方が良いでしょうね。

【宮城県南担当：斎藤】

【家畜疾病】 PED 発生八県 170 農場以上に拡大

豚流行性下痢(PED)の発生が続いています。2 月末に高知県でも確認され、これで全国八県での PED 発生となり、170 農場以上、発生頭数 13 万頭余、死亡頭数が 3 万頭近くに上る被害となっています。

去年から国内豚価が堅調に推移していますが、PED 発生・被害拡大となれば、今年春から夏の豚価はかなり上昇するのではないかとの見方も出てきています。

去年 10 月に沖縄で 7 年ぶりに PED 発生して以降、11 月には茨城で確認され、更に 12 月には鹿児島で 115 農場での発生を見ています。1 月末には熊本、2 月には愛知と青森にも発生がありその後高知でも確認。これで全国八県での PED 発生となりました。

糞便を介して直接的または間接的に経口感染する PED の伝播経路を考慮すると、農場内にウィルスの侵入を許さない飼養衛生管理を徹底する必要があります。

農水省では、都道府県畜産部に対し「冬季から春季までにかけて流行しやすいという本病の特性を踏まえるとともに、他の家畜伝染病の侵入防止に万全を期する観点からも、改めて消毒等の発生予防及び蔓延防止策の実施など、飼養衛生管理基準の順守の徹底を家畜飼養者及び畜産関係者への周知及び指導をお願いします。」との通達を出しています。(飼料通信 3/3 より一部抜粋)

農場での防疫対策については、(1)豚・人・車輛等の出入りを必要最小限に制限し、農場への出入りに際しては、消毒の徹底を図る。(2)導入豚は隔離豚舎で 2-4 週間飼育し、健康確認してから移動する。(3)導入豚や分娩前の母豚に対し、市販のワクチンを接種する。(4)豚舎毎の踏込消毒槽の設置と消毒の徹底を図る。(5)本病で問題となっている地域への訪問を極力控える。

当社においても、飼料運搬車の消毒、踏込槽の設置・実施徹底(消毒剤：クリンエール)で、お客様の農場にウィルスを持ち込まぬ様、充分注意いたします。

【宮城福島山形担当：二瓶洋一】

【粗飼料】 輸入牧草情勢

当社常時在庫である、カナダ産チモシー、豪州産オーツの状況ですが、チモシーはプレミアムの絶対量が少なく、14年産の新物まで在庫は厳しい状況です。

オーツは、去年（12年産）の品物はトップグレードが多く、ローグレードが少ない年でしたが、新物（13年産）の品物はトップグレードが少なくトップとローの中間グレードが主体となっている状況です。当社では可能な限り個配に対応し、良質な牧草の仕入を心掛けております。

<アルファルファ：輸出向けは荷動き鈍化>

13年度産は他草種同様に雨被害で、どの番手も例年にない悪い作柄になっています。また、UAEと中国が輸入割合を6割しめており、両国の動きによって市場価格に大きく影響しそうです。

日本向けの荷動きは鈍化している様です。2013年産は日本向けの良品も少なく各輸出業者は苦戦を強いられております。

新穀に関しては天候次第では有りますが、価格が下がらない限り日本からの需要はPSW産のアルファへの移行は進むと思われれます。産地価格に関してはカリフォルニア州での干ばつの影響もあり価格が下支えされている状況で先行きは不安視されております。

<豪州情勢：ヴィクトリア州>

他産地同様トップグレードの発生はわずかとなっております。13年産は収穫後の雨の影響が少なかった為見た目は非常に良いですが、生育期に十分な降雨があった為単収が増えており、分析値は昨年比やや落ちる傾向が有る様です。又、豪州クィーンズランドでは干ばつになっており、放牧地での草が育たない状況になっております。その影響を受け国内相場は上昇しており今後その事が輸出向けの価格に影響を与える可能性が有ります。

13年産オーツヘイは、収穫が昨年末までに終了しています。どの産地も雨当たり被害が発生していますが、大半が軽い雨で済んでいることもあり、最も酷い作柄と言われた2年前の11年産ほど酷い状況ではなく、見た目がきれいなローグレード品が多く発生しています。

(豊田通商株式会社より引用)

現在カリフォルニア州中央部およびネバタ州北西部周辺では、旱魃傾向となっています。放牧用の牧草の生育にも影響が出ている模様。そのため、肥育農家から乾牧草の引合いが強まっており、アルファルファをはじめ、どの草種も産地価格は上昇傾向になっています。14年産の北カリフォルニア産アルファルファやスーダングラスの作付面積や生産量への影響も懸念されるため、今後の動向には注意が必要です。

<カナダ産チモシー>

収穫時期に降雨があり、ハイグレード品は限定的になっています。そのため産地価格は手の届かないところまで高騰している模様です。

<北米コンテナ船>

多くの船会社で2/1付で値上げ実施を発表しましたが、大半が延期となっている模様です。しかしどの船会社もコンテナ部門の採算悪化が続いているため、今後も海上運賃は強含みで推移することが予想されます。(全酪連情報より引用)

【宮城県北担当：松浦卓也】 【宮城県南担当：斎藤勉】
